

## (166) 栃木県塩谷町の鉛山鉦山跡

久しぶりに「新」鉦山跡を紹介できることをは嬉しい。

岩友に、天上沢鉦山の西方数kmあたりに「鉛山鉦山」があったらしい、次にその探査を行おうと誘われた。著者にはこの玉生にあるという「鉛山鉦山」の名は全く知見が無かった。それで、探査に出かける前の事前資料調査を行った。

文献(1)には、「天上沢鉦山」の項に引き続いて「鉛山鉦山」の項があり紹介されていた。が、僅か3行程度の紹介文であった。「・・・天上沢鉦山の西約3.5km・・・。鉦石の性質は天上沢鉦山のものと同様・・・。」文献(2)では8行にわたって紹介文があった。両方の内容からすると、文献(1)はこの文献(2)を種本としたようである。(2)の方がより確かである。「・・・天上沢鉦山の西方約3.5kmに当たり、峰を距てて鉛山と称する旧坑がある・・・。」この文章の「峰を距てて・・・」という所に注目して、探査済みの天上沢鉦山の資料を調べることとした。そして何と、後掲している図4(天上沢鉦山の鉦山図)を目にした。この図をよくよく見ると天上沢鉦山の西方の峰を越えた所に、「鉛山坑」と「鉛山宗義坑」の2つの坑道が記載されていることに気づいた。本当に幸運であった。等高線も明瞭であり、現在の地形図とほぼ一致もしている。現在の地形図と鉦山図を対比すると、両方の坑口付近まで林道が延びていることにも気がついた。「鉛山鉦山」の位置が地図上でほぼ確定できたとして、岩友と日時を打ち合わせて現地探査に出かけた。

結果、ほぼ現地を確定できた。「鉛山宗義坑」付近ではほぼ埋もれかかっている坑口跡を確認できた。「鉛山坑」では、坑口跡を明瞭に確認できなかったが、それなりの鉦山施設材料が確認でき、天上沢と類似した鉦石を採集することもできた。「鉛山坑」は土石流で埋もれてしまったのかもしれない。が、現地を確認できたので、付近を時間をかけて再探査を行うのが良さそうである。

2021年 2月



図1 中央の赤輪の部分が「鉛山鉦山跡」、その右側の赤輪が「天上沢鉦山跡」。玉生で461号から63号に入り、北上し、東荒川ダムを左下に見て、通り越し、豊月平放牧場の西端の所のA点の所で、林道に入り南下していく。途中ゲートが閉まっているならば、その箇所から徒歩となる。ゲートが開いていても、先で林道の崩壊箇所が未だ修復されていない所があるので留意すること。

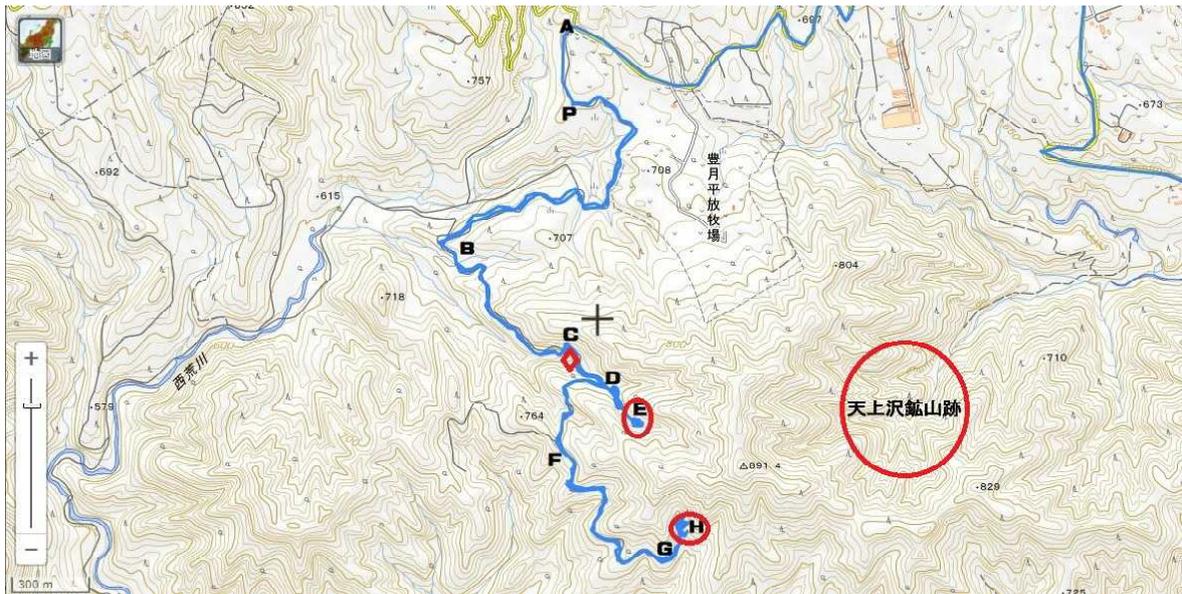


図2 図1の部分拡大図。A点は豊月平放牧場の西端である。A点から林道に入り南下するが、事前情報では林道崩壊により、通行不可能とのことで、P点付近に駐車して、それより徒歩となる。E点とH点の2カ所が予想した「鉛山坑」と「鉛山宗義坑」の位置。C点で林道は完全に崩壊していた。

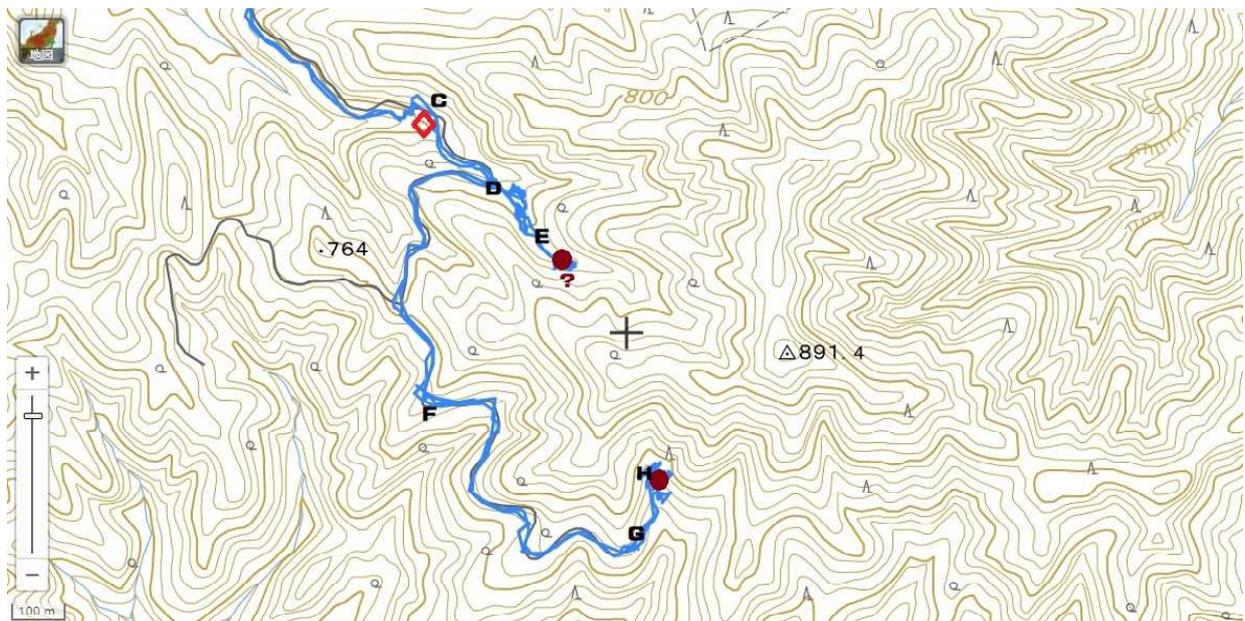


図3 図2の部分拡大図。林道の大崩壊地点であるC点は山側を迂回して通り抜けた。沢中のE点付近には鉱山稼働に使用した備品などが残っていた。H点では辛くも残っている坑口跡を確認できた。「鉛山宗義坑」跡と判断した。この箇所の下流部にズリ跡らしい箇所を観察したが、めぼしい鉱物は見つけられなかった。努力不足か。林道は崩壊箇所がなければ、かつてはG点の所まで車で通行可能であった。今後そうなるかは分からない。

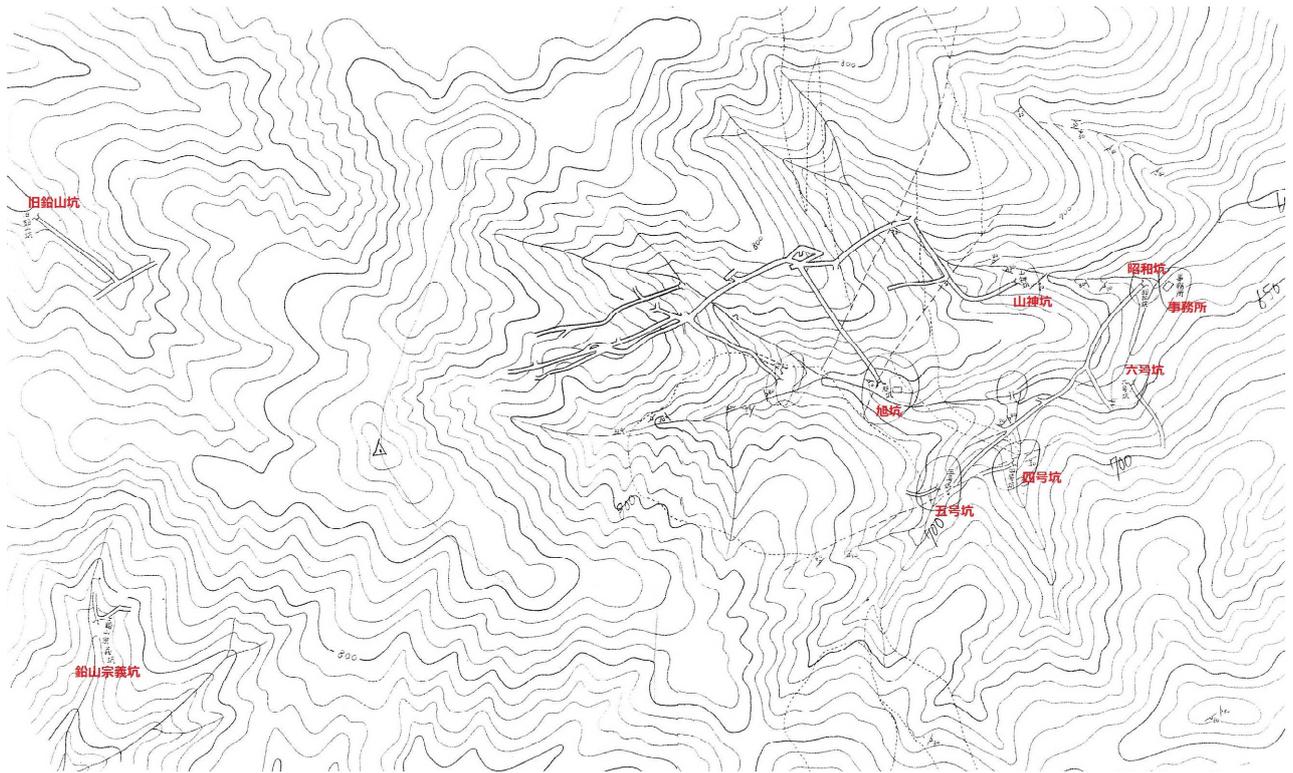


図4 参考文献(3)の天上沢鉱山の項からの複写掲載。原図では文字がつぶれかかって読みにくい所の坑口名を赤文字で書き足している。右側の坑口、坑道群が天上沢鉱山のものである。中央少し左側に南北に延びている峰があり、その西側の斜面に「旧鉛山坑」と「鉛山宗義坑」が明示されていた。それらの位置は参考文献(1)、(2)の記述ともほぼ一致していた。これらの資料から、鉛山坑の位置を不安無く確実に推定することができた。万歳！

## 鉱山跡写真



写真1 63号を進んできた。A点である。左側は豊月平放牧場の西端。前方左側に左折し、林道に入っていく。この林道は崩壊箇所があるとの事前情報があり、P点に駐車し、そこから徒歩で進むことにした。結局、往復で12km歩いた。林道は広くほぼ平坦なので、徒歩容易である。が、C点で林道は大崩壊をしている。結果論であるが、この日にはP点より大分先まで車で進んで行けた。



写真2 C点である。途中幾つかの崩壊箇所は修復されていたが、ここは全く修復がされていなかった林道は前方先は生きている。左手となる山側を迂回して、先に進んだ。



写真3 D点である。林道は大きく右にカーブしている。図4に示している「旧鉛山坑」は事前調査では前方の沢の上流にあると判断していたので、前方に進んで行く。



写真4 E点付近の沢底の様子。錆び付いた鉄ワイヤーロープが土砂に埋もれている。



写真5 写真4の少し上流には曲がったトロッコ用のレール、大量の鉄ワイヤーロープが土砂に埋もれかかっていた。レールは水平坑道があった証拠。鉄ワイヤーはここから鉄索などを利用して鉱石を下ろした証拠である。この付近に結構大きな坑道が開削されていたと判断した。が、もう1つの坑道跡の探査もあるので先を急いだ。短時間の1回だけの探査では明瞭な坑道跡を確認できず。



写真6 G点付近である。林道が修復されていればここまで車で来ることができたはず。



写真7 H点付近で沢の上流を見上げている。沢は土石流、倒木群で覆われている。



写真8 H点付近の林道より少し上の沢で埋もれかかっている坑口跡を見つけた。「鉛沢宗義坑」と判断した。赤輪の所。遠目では縦目の岩陰のようであった。



写真9 写真8で示した赤輪の所に接近し、入口から内部の様子を見る。坑道の上部は未だ空いているが、下部は殆ど完全に埋もれている。坑口跡を確認できて一安心。ここより下の方にズリ跡らしい箇所があったが、めぼしい鉱石は見つけれず。



写真10 気分転換。F点の所。ここは何故か結構広い原っぱ状になっている。Google Earthでも確りと確認できる。ここから北側に、立室山、その後ろに少し頂上を出している高原山が遠望できた。

## 採集鉱物



写真11 E点付近で採集した標本。黄銅鉱、閃亜鉛鉱、方鉛鉱、石英の小粒で固まっている。天上沢のものによく似ている。鉱山名に「鉛」が付いているので、方鉛鉱が豊富であったのであろう。再探査して、方鉛鉱が豊富な標本を採集したいものである。

## 参考文献

- (1) 「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。
- (2) 「塩原図幅地質説明書」、岩生、今井、地質調査所、昭和30年（1955年）
- (3) 「地下資源調査報告書 第1号」、栃木県、1956年